

教職課程における合宿型教員採用試験対策講座の成果と課題

Results and Issues of Training Camp-type Teacher Employment Examination Preparation Courses in Teacher Training Courses

坪井 恭紀・御神本 実

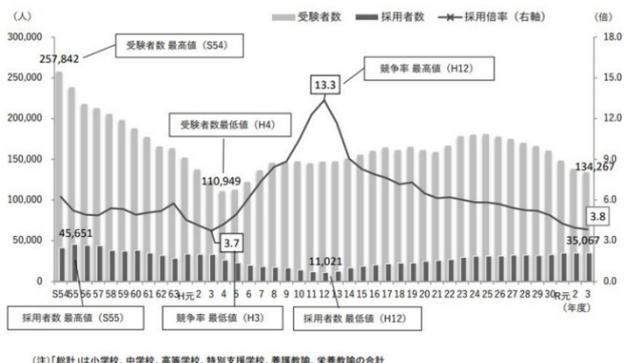
I. 研究の背景

2023年3月現在、周南公立大学（以下、本学）の3年生は、中学校・高等学校保健体育の教員免許状を目指している学生が44人、同中学校社会・高等学校地歴公民が5人、高等学校商業4人、小学校2人の延べ55人が教員免許状の取得を目指している。最近の教職課程受講学生数の推移は表1のとおりである。2024年4月の学部学科改編により、人間健康科学部スポーツ健康科学科（定員80人）が新たに発足する予定で、中学校・高等学校保健体育教員免許状取得者は今後さらに増加するものと予測される。

本研究は、本学における教職課程の変遷、教職カリキュラムの特色、および教員採用候補者選考試験（以下、教員採用試験という）をとりまく現状と他大学の取り組みを概観し、本年度実施した「2022年度 周南公立大学 合宿型教員採用試験対策講座」の成果と課題から、教職課程受講生のキャリアサポートに資する有効な正課外プログラムを検討することを目的とする。

1. 選考試験の採用者数と競争倍率の全国状況

全国の教員採用状況に目を移してみると、1980年度の採用数の最高値（45,651人）から2000年度の最低値（11,021人）を経て2021年度（35,067人）まで増加傾向がみられる（図1）。しかし、少子化に伴う児童生徒数の減少は今後も続き、



（注）「総計」は小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、養護教諭、栄養教諭の合計

図1 受験者数・採用者数・競争率の推移

（出典：文部科学省,2022,「令和3年度（令和2年度実施）公立学校教員採用選考試験の実施状況のポイント」）

学校数・学級数の減少は教員定数にも大きく影響することから引き続き採用者数は少ない。

相変わらず狭き門である。現役で合格を勝ち取るのは極めて困難な現状においては、計画的かつ実効性のある試験対策が必要不可欠である。

2. 徳山大学における教職課程設置経過と教員免許状取得状況

徳山大学（現在の周南公立大学）は1971（昭和46）年4月に開学し経済学部経済学科一期生126人が入学した。その2年後の1973（昭和48）年、経済学科に教職課程が設置され「中学校教諭一種免許状社会・高等学校教諭一種免許状地歴公民」の取得が、また、1978（昭和53）年には、経営学科に教職課程が設置され「高等学校教諭一種免許状商業」の取得が可能となった。2003（平成15）年に誕生した福祉情報学部においては、「高等学校教諭一種免許状福祉・高等学校教諭一種免許状情報」の取得が可能となった。さらに、2006（平成18）年、経済学部ビジネス戦略学科スポーツマネジメントコースに「中学校教諭一種免許状保健体育・高等学校教諭一種免許状保健体育」取得が可能となり、これは経済学部では日本初の取り組みであった。保健体育科と商業科の免許状が同時に取得することができることは当時としては大きな魅力として注目された（学校法人徳山教育財団徳山大学, 2021）。2021（令和2）年には、本学の学生が、玉川大学教育学部教育学科通信教育課程の科目等履修生として「小学校教諭二種免許状」が取得可能となった。

表1 周南公立大学 教員免許状取得者数（人）

	保健体育	社会・地歴・公民	商業	小学校	教員免許状免許取得者	同期入学生
2018年度	33	1	0	*	34	294
2019年度	36	1	8	*	45	307
2020年度	41	5	4	*	50	297
2021年度	22	1	3	*	26	280
2022年度	34	7	5	2	48	287
2023年度	44	5	4	2	55	296

※2022年度から小学校教員免許状取得が可能になったため、それまでを*で示す。また、2023年度は予定数である。

（筆者作成）

ここ5年間の教員免許状取得者は同期入学生に対して10～20%で推移している(表1)。

教職を目指す学生は一定の割合を確保しながら増加の傾向が見えている。

3. 本学の教職志望学生を対象とするキャリアサポート(教員採用試験対策)状況

全国で行われている教員採用試験の試験内容は、

- I : 一般教養
- II : 教職教養
- III : 専門教養
- IV : 個人面接
- V : 集団面接
- VI : 集団討論
- VII : グループワーク
- VIII : 模擬授業
- IX : 実技

が主な領域で、自治体によって異なるが、1次試験と2次試験に分けて実施している。

本学の正課の授業で教員採用試験対策として実施しているのは、「教職キャリア教育Ⅰ」と「教職キャリア教育Ⅱ」のみである。

「教職キャリア教育Ⅰ」では、教職教養、専門教養の筆記試験対策と面接対策(個人面接、集団面接、集団討論)、そして、場面指導対策としてグループワーク、模擬授業を実施している。「教職キャリア教育Ⅱ」では実技に絞った対策を行っている。

いずれも通年で開講し、90分授業を30回実施している。すべての教員採用試験内容に対して対応をしているものの、競争倍率が高い教員採用試験に合格することは容易ではなく、本学が過去現役で合格している実績はない。合格するために必要な知識・技能の確実な定着に至るには、さらに踏み込んだ対策が必要であると思われる。

また、本学の教職課程の学生の特徴である「教員志望度は3年生が最も低い」(水崎他, 2021)の先行研究のデータより、準備が不十分だと感じている学生が、試験対策として積極的に取り組む姿勢はあまり見受けられない。業者が実施するセミナー等も有料であったり、クラブ活動やアルバイトの時間も確保したりするなどの生活実態もこうした状況の背景にある課題の一つと推測できる。

4. 他大学の教職学生を対象とするキャリアサポート例

現在では、多くの大学で教員採用試験対策の正課外プログラムが行われている。

教員採用試験に向けて自信を持たせる特訓講座が行われている(川野・松村, 2012)。教員採用試験に合格するためには教員養成課程の教科・科目の履修だけでは不十分であり、正課外プログラムを含め組織的・系統的な対策を講じる必要がある(日野, 2014)からである。教職実践基礎講座や自主勉

強会により教員を目指そうという動機付け、支え合いながら研鑽を重ねる学生同士の人間関係作り、教師としての実践力向上、そして、採用試験直前対策が行われてきた(原田・相澤, 2013)。

そして、こうしたプログラムは、教員採用試験対策の取り組みに参加者全員から肯定的評価を得られている(川野・松村, 2012)。どの大学でも教職志望者のほとんどがこれらの支援プログラムを利用しており、各大学の(教員)就職率が向上している(河野他, 2017)など、成果を上げている。

しかし、他大学での取り組みの課題としては、遅くとも3年教育実習後には進路を決断し教員採用試験対策に取り組むように、学生の意識改革をする必要があること(牧口, 2016)、自主勉強会や直前特訓での指導、日常的な個別指導は各教員が無償奉仕で行っている(原田・相澤, 2013)実態があり、きめ細かく熱心な指導を続けるには予算も必要になることが挙げられている。また、「教員採用試験対策講座」の実施は知っているが学生の参加率は低い(田中, 2019)など、教職や教員採用試験への意識の低さも指摘されている。

5. 本学における教員採用試験の実績と合宿型教員採用試験対策講座への運び

本学は、毎年15人～20人の4年生が各自自治体の教員採用試験を受験しているが、現役で候補者名簿に登録される学生はいなかった。しかし、周南公立大学初年度の2023年に山口県公立小学校採用候補者に初めて2人の現役学生の名前が掲載された。

教員採用試験の狭き門にチャレンジし合格するために、2019年度から正課外プログラムとして「合宿型教員採用試験対策講座」通称TKB48(徳山大学教員採用試験勉強会定員48人)を開設する運びとなった。通称を2022年度からSKB48(周南公立大学教員採用試験勉強会定員48人)と改称し、通算4年が経過している。

II. 「2022年周南公立大学合宿型教員採用試験対策講座」の成果と課題

上記の背景から、筆者らは2019年度より教員採用試験現役合格を目指す課外講座を実施した。本稿では2022年度の実施内容および成果と課題について報告する。

1. 講座の概要

2022年度の講座は2023年2月18～19日の2日間で実施し、参加者は3年生7人、2年生1人、1年生7人の教職課程学生計15人である。学習内容は①教員採用試験現役合格に向けて②教育実習での有意義な学び③仲間づくりで構成し、学内外4人の講師によって計8つのプログラムを実施した。

本講座の特色としては、中学校・高等学校の管理職や教育委員会でのキャリアも有し、授業や教員組織の実情や問題点を知る経験豊かな講師陣である3人を招聘した。これにより、学校教育現場での具体的な取り組みや実践事例を基にした講

義や演習を重視した実践力を高める内容で構成されていることが挙げられる。講座の開始前には、プログラムの内容について著者らと講師で3回のミーティングを行い、また、受講生からもサポート係を選出し講師と受講生が一体となって講座を運営した。具体的な内容については表2に示すとおりである。

表2 令和4年度SKB48実施要項(抜粋)

令和4年度「SKB48」実施要項《周南公立大学 教員採用試験 勉強会 定員48人》	
周南公立大学教職課程運営委員会	
1 期 日	令和5年2月18日(土)～19日(日)2日間
2 会 場	周南公立大学 1121教室 記念会館(体育館)
3 受 講 者	教職課程科目を履修している学生(定員48人)
4 プログラム	
【1日目 2月18日(土)】	
8:50～9:10	1121番教室集合 出席確認 資料・班名簿等配付
9:20～9:30	教職課程運営委員長あいさつ 瀬尾賢一郎
9:30～9:50	説明 「SKB48のねらいと心構え」 坪井 恭紀(つばい やすのり)
10:00～11:00	講義Ⅰ 「学校における教員の役目と醍醐味」 森定 宏之(もりさだ ひろゆき)氏 岡山県青少年教育センター関谷学校 次長
11:10～12:10	講義Ⅱ 「教員採用試験の出題傾向と対策」 御神本 実(みかもとみのる)氏 山口県由宇青少年自然の家 所長
13:10～14:40	体験学習「学校教育現場におけるコミュニケーションとは何ぞや!?」 ～ コミュニケーション再考と自らの力を知る ～ 坪井 恭紀
15:00～16:20	模擬授業Ⅰ(2名) ・1人20分の模擬授業実施 → 学生相互評価5分 → 担当教員5分間指導講評
【2日目 2月19日(日)】	
9:20～	記念館(体育館)集合 出席確認 模擬授業準備
9:30～12:10	模擬授業Ⅱ(4名)
13:10～14:10	講義Ⅲ 「教員採用試験の出題傾向と対策」 江山 稔(えやまみのる)氏 防府市教育委員会教育長
14:20～15:50	教員採用候補者選考試験模擬面接 御神本 実氏 森定 宏之氏 江山 稔氏
16:00～16:20	振り返り

(筆者作成)

2. 事前事後アンケート調査

本講座の学習成果を検証するため、参加者全員を対象に、講座の事前事後において下記のアンケート調査を実施した。

アンケートは「教員採用試験の内容に関する知識・理解(教職教養、専門教養、個人面接、集団面接、模擬授業、実技試験)」、「教員採用試験に合格するために必要な取り組みに関する知識・理解」および「現在行っている試験対策・勉強に関する実践・行動」の3領域計8項目から構成し、各設問に対して「具体的に説明できる状況」であるかどうかを尋ねた。回答はすべて「非常にそう思う」から「まったくそう思わない」の5件法による主観的評価とし、事後調査では「学んだこと、考えたこと、活かしたいこと、感想などを記述してください」という問いを設け、自由記述にて各プログラムへのコメントを求めた。

調査の実施には Google 社が提供する Google Forms を用

い、2月13日に著者および研究協力者から調査の内容と回答フォームのURLを講座参加者全員に周知し、事前調査については2月17日までに、事後調査については2月19日までに回答するよう依頼した。依頼にあたっては、回答フォームの冒頭およびWebにおける連絡の文面の双方において、本調査の目的および概要を記し、回答協力は自由意志により行うこと、回答に協力しない場合にもいかなる不利益も受けないこと、調査目的に応じて集計され学術雑誌などで公表されること、個人としての回答が公表されることは一切なく、プライバシーは完全に保護されることの説明を明記し、これらの説明について同意した場合にのみ回答するよう依頼した。

得られたデータについては、5件法の「非常にそう思う」を5点、続く回答順に4、3、2、1点に換算し、t検定にて各項目における事前事後の回答比較を行った。データの処理にはIBM SPSS Statistics Version 25.0 for Windowsを用い、有意水準は5%未満とした。なお、アンケートの回答率については、事前事後ともに参加者全員の回答協力が得られた。

3. 学習の成果および課題

回答者15人における8項目の設問と事前・事後全体の平均値および標準偏差を図1に示す。事前事後の比較においては、「教職教養($t=-.341, p=.738$)」および「専門教養($t=-1.37, p=.196$)」の2項目では有意な差が認められず、「個人面接($t=2.23, p=.43$)」「集団面接($t=-.335, p=.005$)」「模擬授業($t=4.05, p=.001$)」「実技($t=-2.56, p=.023$)」「合格に向けての取り組み($t=-2.30, p=.010$)」「試験対策($t=-4.70, p=.000$)」の6項目および参加者の「総合平均($t=-2.98, p=.01$)」において、事後で高い値が示された。

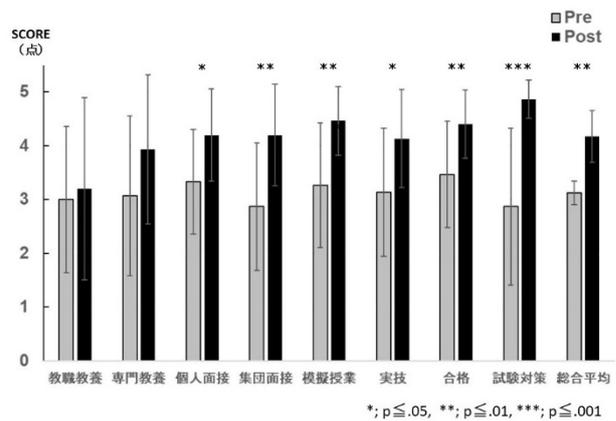


図2 講座の事前・事後における各項目の主観的評価の平均値および標準偏差 (筆者作成)

また、自由記述においては項目別に表3に示す。

以下、これらの結果と各プログラムに対する学生の自由記述を基に、学生の事前・事後の意識の変化などを踏まえた上で、教職学生のキャリアサポートに効果的な教員採用試験対策講座のプログラムについて考察したい。

表3 SKB48参加者アンケート調査各プログラム別
自由記述結果(抜粋)

<p>講義Ⅰ：学校における教員の役目と醍醐味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員のやりがいや必要な資質について学んだ ・教員は人格者であることが条件 <p>講義Ⅱ：教員採用試験の出題傾向と対策(筆記試験)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験の動向や傾向を具体的に知ることができた ・どのように勉強したらよいか、今までより絞って勉強に取り組める ・各自自治体で求められている資質・能力を理解しておくことが重要 <p>模擬授業Ⅰ・Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて楽しい集団行動が体験できた ・生徒を主役として生徒に考えさせる授業が重要 ・教育実習に行くための大きな糧となった <p>講義Ⅲ：教員採用試験の出題傾向と対策(面接試験)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の面接試験を想定した、また、試験に近い雰囲気での講義だった ・どういう感じなのか体験できて雰囲気がつかんだ <p>教員採用試験対策模擬面接</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接官は敵ではないことがわかった ・簡単にわかりやすく表現することが必要 ・実際に面接練習を講師からしてもらえたので雰囲気がつかめた <p>2日間を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年以上に胸に刺さる内容だった ・教員になるための厳しさや自分に対する甘さを実感した ・自分の夢見る教師になりたい ・強い思いをもって試験に臨む ・何をすべきかがより明確になりモチベーションアップにもつながった ・すごく有意義な2日間だった 自信がついた

(筆者作成)

事前事後アンケート調査結果の比較から、「教職教養」「専門教養」では有意な差が認められなかった。今回の講座の内容は、教員採用試験全体の大まかな傾向の理解と基本的な対策を中核としてプログラムを構成し、学校教育現場の具体的な取り組みについて丁寧に示したものであった。また、「教職教養」の出題範囲は、教育原理、教育心理、教育法規、学習指導要領、教育時事、教育史など、かなりの広範囲であり、これを確実に習得し試験の解答に反映できるようになるにはかなりの時間を要するものであり、具体的な内容を他者に説明することができる水準に至るまでにはならなかったようである。今後は、各項目においてより具体的な内容を示すことの必要性を感じた。

「個人面接」、「集団面接」、「模擬授業」、「実技」、「合格に向けての取り組み」、「試験対策」の6項目および参加者の「総合平均」においては、事後に高い値が示された。

項目ごとに、それぞれの内容に精通し、高い専門性を有する講師を配置し、プログラムを実施した結果が反映されていると思われる。受講者目線に立った、具体例を示したしっかりとかみ砕かれた講義内容であった。また、「個人面接」、「集団面接」は試験場面を想定した本番に近い雰囲気で行われ、日ごろの学内では体験することができない緊張感のある実体験を重ねる貴重な機会となった。

「合格に向けての取り組み」の自由記述では、参考書、過去問、演習問題を使つての問題演習、学習指導要領、教育法規の熟読など、試験に生かせる知識として定着させるための学習法の具体例が示された。こうしたことが、これから合格をすするためにはしっかりと勉強するかを問う設問「試験対策」の高い

値につながったものと思われる。

また、表3に示した「プログラム別自由記述」においては、「具体的な内容だったので理解しやすかった」、「実際の試験の雰囲気がかめた」などの自信になり、モチベーションアップしたというような、いずれも講座参加者の前向きな回答に反映されたものと思われる。

以上のことから、教員採用試験で問われる内容や出題傾向、それに対する対策が明確になり、参加者の心が教員採用試験に向けて明らかに前向きになったことが裏付けられ、「合宿型教員採用試験対策講座」をはじめとする正課外プログラムは参加学生の教員採用試験対策に対しポジティブな影響を及ぼすことがわかった。

Ⅲ. 本学における今後の課題

各自自治体の募集要項から見られる最近の傾向として、「人物重視」がより鮮明になっていることがうかがえる。したがって、筆記試験対策もさることながら、面接、模擬授業、実技などの人物や技能知識の応用力を評価する試験への対策も採用試験の高評価につながることでして考えるべきであろう。

教員採用試験に合格するには、学校教育現場で磨き上げられた専門的な知識や技能を有する講師の招聘や、学生が自ら進んで受験対策に取り組めるやる気を喚起させるようなプログラムの工夫と改善が必須である。今後においてもSKB48はもとより魅力的な正課外プログラムを計画立案し、それを教職課程の受講生全員に広く行き渡るアナウンスが必要であると考える。

また、現在年間3回行われているSKB48の実施回数の増加、学生同士のグループで構成する自発的学習会や気軽に立ち寄り相談ができる学習室の整備など学生が自ら進んで勉強できる環境の整備も、喫緊の課題である。

また、本学では2・3年生を対象に通年集中講義として学校インターンシップを実施している。これは教員採用試験の専門教養試験や面接試験への対策としては極めて有効な手段と考えられ、SKB48と並行して積極的な参加を呼びかける必要がある。

そして、正課である教科教育法の授業内等を利用し模擬授業を行うことで、具体的な自分の弱点や児童生徒の興味・関心を引き出す学習内容および指導法が確認できる。加えて、各自の授業力が高まり、教員採用試験の専門教養試験や模擬授業試験に有効に働くものと期待できる。

各自が自信を持って教員採用試験に挑む必要がある。本稿が検討したプログラムは、難関とされる試験に合格するため大変効果的なプログラムであり、1つとして欠けてはならない取り組みである。

引き続き現役合格学生を多く出すことのできる大学として、本学教職課程受講生の夢実現に向けた支援を継続していきたい。

【謝辞】

本研究の進め方や枠組み、また、アンケート調査のデータ処理・分析について有益なご助言をいただいた周南公立大学経済学部ビジネス戦略学科スポーツマネジメントコース岡井理香准教授に感謝の意を表する。

【参考資料】

- ・徳山大学 50 周年記念事業準備室編（2021）「徳山大学これまでの歩み⑤」『徳山大学五十周年史』，学校法人徳山教育財団徳山大学，pp.36.
- ・川野司，松村千鶴（2012）「小学校教員採用試験対策春季特訓講座に関するアンケート調査」『九州女子大学紀要』第 49 卷 1 号，九州女子大学，pp.37-51.
- ・河野誠哉他（2017）「国立大学教員養成学部における教育就職支援の取り組みに関する事例的研究」『大学改革と生涯学習：山梨学院生涯学習センター紀要』第 21 号，pp.72-73.
- ・田中正一（2019）「教員採用試験対策の取組 ー本学教職学生のアンケートからー」『埼玉工業大学教養紀要』，埼玉工業大学，pp.46.
- ・原田亮・相澤亮太郎（2013）「甲南女子大学における小学校教員採用試験対策の取り組み」『甲南女子大学研究紀要』49 号，甲南女子大学，pp.82.
- ・日野純一（2014）「教員採用選考試験の現状と課題」『京都産業大学教職研究紀要』第 9 号，京都産業大学教職課程教育センター，pp.1.
- ・牧口典子（2016）「小学校教員採用試験対策の現状と課題」『初等教育学科紀要』創刊号，白百合女子大学，pp.80.
- ・水崎佑毅（2021）「教員志望度からみた体育の模擬授業の効果に関する事例的検討」『徳山大学創立 50 周年記念論文集』，徳山大学経済学会，pp.197-208.
- ・文部科学省「受験者数、採用者数、競争率（採用倍率）の長期的推移」，文部科学省ウェブサイト，
https://www.mext.go.jp/content/20220909-mxt_kyoikujinzai02-000024926_2.pdf
（2022 年 2 月 28 日閲覧）
- ・文部科学省「令和 3 年度（令和 2 年度実施）公立学校教員採用選考試験の実施状況のポイント結果概要」，文部科学省ウェブサイト，
https://www.mext.go.jp/content/20220128-mxt_kyoikujinzai01-000020139-1.pdf
（2023 年 3 月 20 日閲覧）